



博多港・福岡空港の概況

令和5年9月
福岡市港湾空港局

= 目 次 =

第1章 博多港の物流

1. 国際海上コンテナ取扱個数（TEU ベース） … P.1
（1）国際海上コンテナ取扱個数の推移
（2）令和4年の取扱個数増減の主な要因
（3）貨物の内訳
【参考：国内主要港との比較（令和3年）】
2. 国際海上コンテナ定期航路と寄港地 … P.4
3. 海上出入貨物（トンベース） … P.5
（1）海上出入貨物量の推移
（2）令和4年の貨物量増減の主な要因
（3）外国貿易
（4）内国貿易

第2章 博多港の人流

1. 船舶乗降人員 … P.9
（1）船舶乗降人員の推移
2. うち外国航路船舶乗降人員 … P.10
（1）外国航路船舶乗降人員の推移
【参考：国内上位5港の推移】
3. クルーズ船の寄港回数 … P.11
（1）クルーズ船の寄港回数の推移

第3章 博多港の入港船舶

1. 入港隻数及び総トン数 … P.12
（1）入港隻数及び総トン数の推移

第4章 福岡空港の概況

1. 乗降客数 … P.14
（1）乗降客数の推移
【参考：国内主要空港との比較（令和4年度）】
2. 貨物取扱量 … P.15
（1）貨物取扱量の推移
【参考：国内主要空港との比較（令和4年度）】
3. 発着回数 … P.16
（1）発着回数の推移
【参考：国内主要空港との比較（令和4年度）】
4. 路線状況 … P.17

第1章 博多港の物流

1. 国際海上コンテナ取扱個数（TEU ベース）

【令和4年港湾統計確定値】

取扱個数：約 89 万 TEU

外貿ダイレクト：約 80 万 2 千 TEU、内貿フィーダー：約 8 万 5 千 TEU

（1）国際海上コンテナ取扱個数の推移

令和4年の国際海上コンテナ取扱個数は、令和3年に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響等を受け、全体では令和3年と同程度となっている。

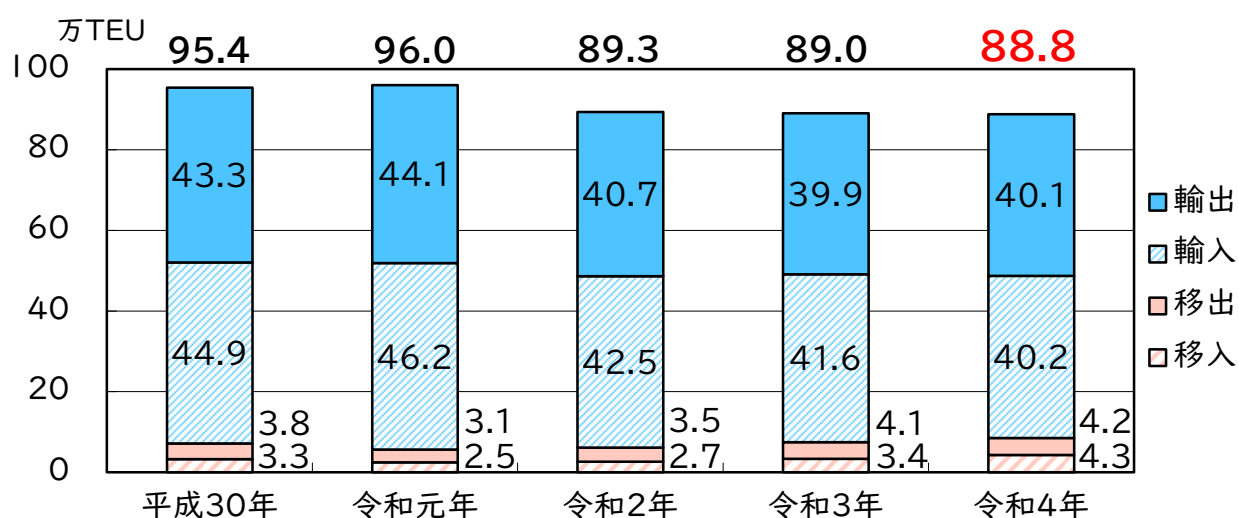
【表 1-1】

(単位:TEU)

区分	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	増減(R4/R3)	
					数量	数量	前年比
博多港全体	953,548	960,085	893,301	890,026	887,734	▲ 2,292	99.7%
輸移出	471,276	472,708	441,499	439,944	442,862	2,918	100.7%
輸移入	482,272	487,377	451,802	450,082	444,872	▲ 5,210	98.8%
うち外貿ダイレクト	882,199	903,566	832,133	814,998	802,378	▲ 12,620	98.5%
輸出	432,810	441,367	406,913	398,554	400,796	2,242	100.6%
輸入	449,389	462,199	425,220	416,444	401,582	▲ 14,862	96.4%
うち内貿フィーダー	71,349	56,519	61,168	75,028	85,356	10,328	113.8%
移出	38,466	31,341	34,586	41,390	42,066	676	101.6%
移入	32,883	25,178	26,582	33,638	43,290	9,652	128.7%

※TEU…コンテナを数えるときの単位で、20フィートコンテナ換算個数

【グラフ 1-1】



（2）令和4年の取扱個数増減の主な要因

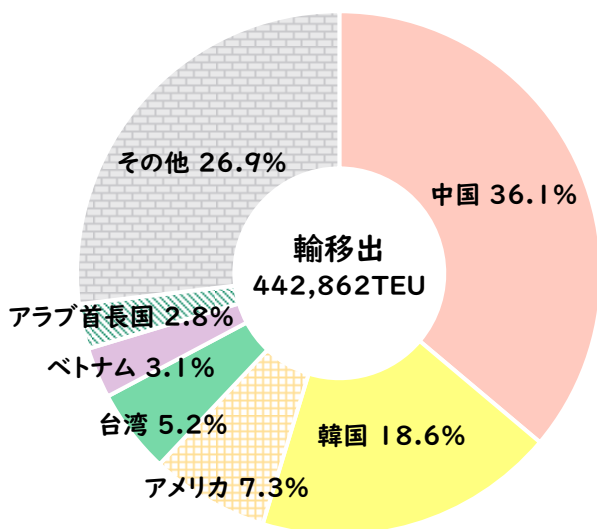
輸移出…自動車部品（前年比+5千TEU）や取合せ品（同+3千TEU）の増加等
 輸移入…電気機械（同▲4千TEU）や自動車部品（同▲3千TEU）の減少等

(3) 貨物の内訳

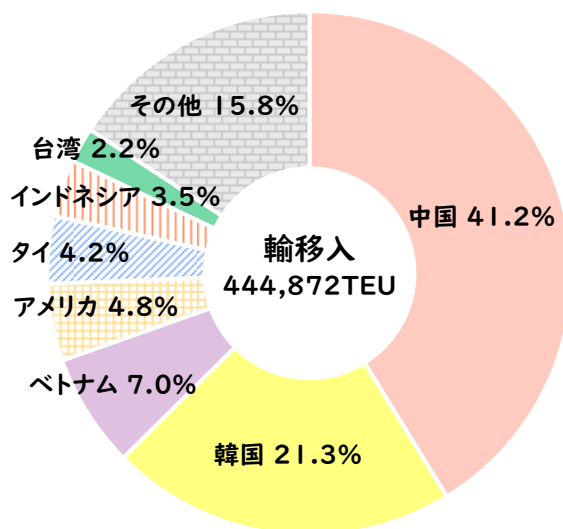
① 相手国別

輸移出入ともに、中国や韓国、台湾などの東アジア地域が全体の約6割を占めている。

【グラフ 1-2】



【グラフ 1-3】



② 主要取扱品種

輸移出では、主に北米や中近東向けを中心とする「ゴム製品（タイヤ等）」や「自動車部品」「完成自動車（中古車）」など、自動車関連産業貨物が上位に挙がる。

輸移入では、主にアジア諸国からの「家具装備品」や「衣服・身廻品・はきもの（衣類関係）」「電気機械」など、生活物資が上位を占めている。

【表 1-2】

(単位:TEU)

輸 移 出				
順位	品種	取扱個数	主な輸出相手国	
1	ゴム製品	53,577	アメリカ	アラブ首長国 サウジアラビア
2	自動車部品	20,825	韓国	アラブ首長国 アメリカ
3	産業機械	20,727	中国	韓国 アメリカ
4	完成自動車	※ 18,521	アラブ首長国	中国 南アフリカ
5	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	17,032	中国	韓国 台湾
6	再利用資材	16,275	台湾	ベトナム 韓国
7	化学薬品	8,708	中国	韓国 台湾
8	二輪自動車	8,481	アメリカ	イタリア ベルギー
9	取合せ品	8,343	中国	インドネシア ドイツ
10	製造食品	6,890	中国 (ホンコン)	台湾 中国

※ 普通・小型乗用車約 37,000 台分に相当

【表 1-3】

(単位:TEU)

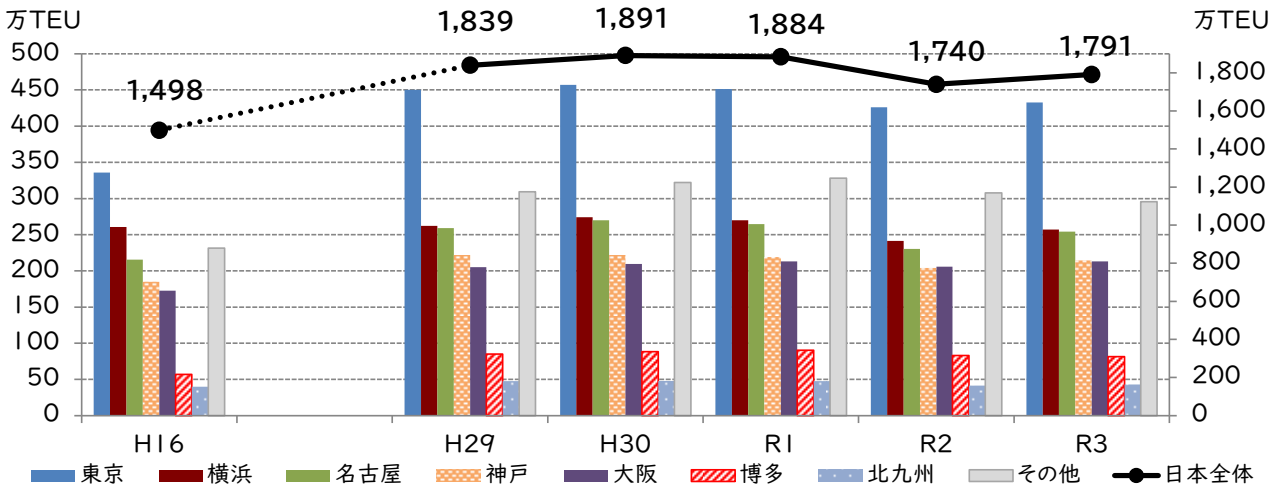
輸 移 入				
順位	品種	取扱個数	主な輸入相手国	
1	家具装備品	52,876	中国	ベトナム 韓国
2	動植物性製造飼肥料	37,273	韓国	アメリカ オーストラリア
3	衣服・身廻品・はきもの	33,942	中国	ベトナム 韓国
4	電気機械	28,293	中国	タイ 中国 (ホンコン)
5	製造食品	24,281	中国	韓国 タイ
6	自動車部品	21,457	ベトナム	韓国 中国
7	金属製品	16,000	中国	フィリピン 韓国
8	その他日用品	15,253	中国	韓国 インドネシア
9	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	14,715	中国	韓国 台湾
10	木製品	14,614	中国	インドネシア フィリピン

【参考：国内主要港との比較（令和3年）】 国土交通省「港湾統計（年報）」より

① 外貿コンテナ取扱個数の推移と博多港のシェア

国内で輸出入される外貿コンテナの5%弱を博多港で取り扱っている。

【グラフ 1-4】



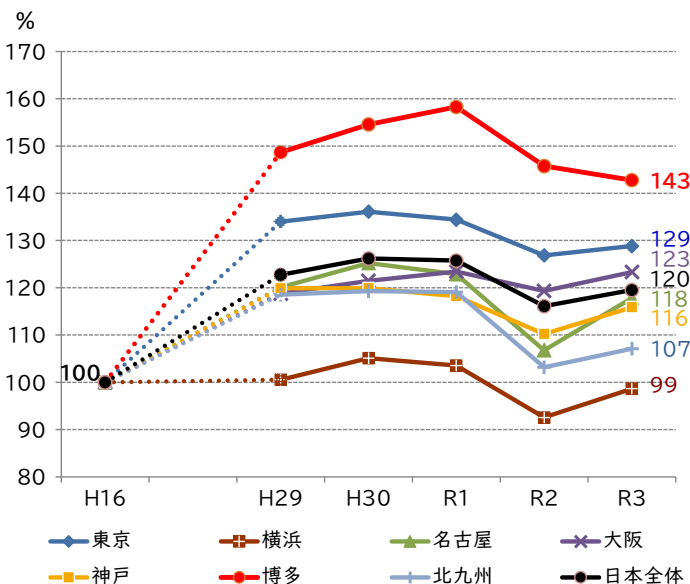
令和3年の港ごとの外貿コンテナ取扱個数は、多い順に、東京、横浜、名古屋、神戸、大阪、博多、北九州となっている。

年	H29	H30	R1	R2	R3
博多港のシェア	4.6%	4.7%	4.8%	4.8%	4.6%

② 国内主要港の外貿コンテナ増加率

博多港の取扱いは、日本全体や国内主要港よりも高い増加率で推移している。

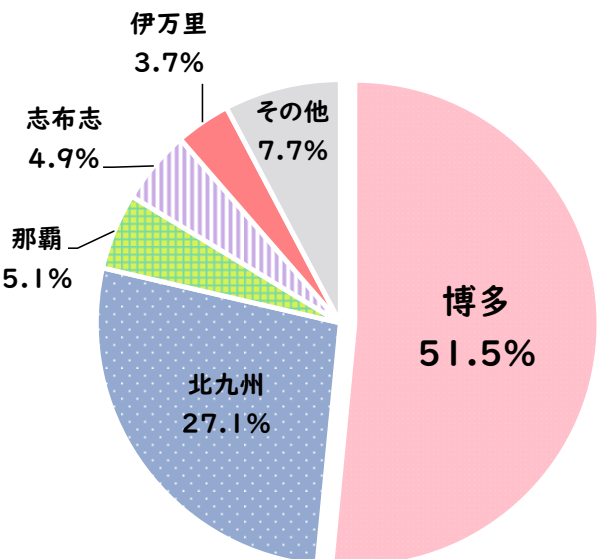
【グラフ 1-5】



③ 九州域内の取扱シェア

九州域内で取り扱われている外貿コンテナ貨物の約5割が、博多港を利用している。

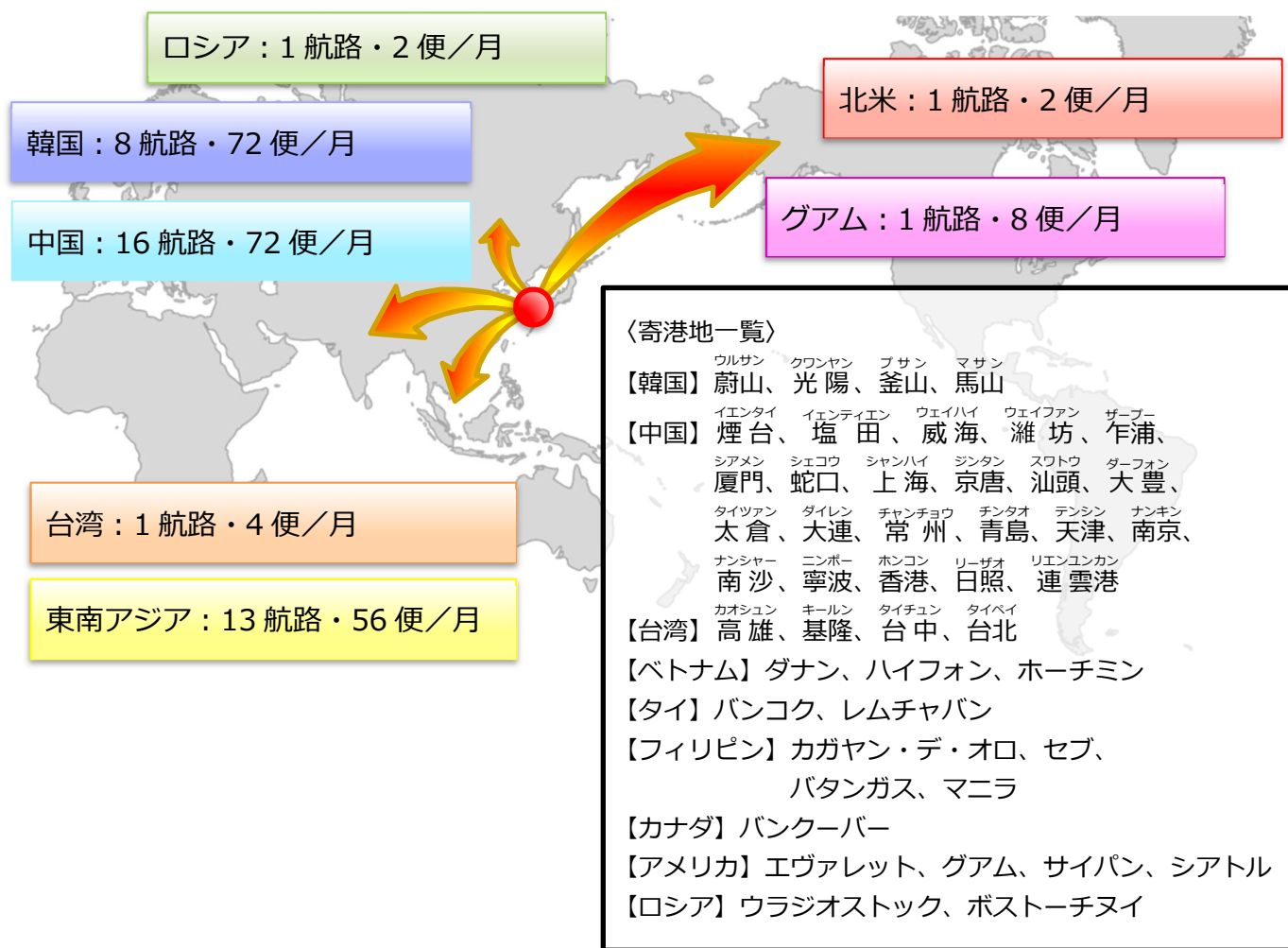
【グラフ 1-6】



2. 国際海上コンテナ定期航路と寄港地

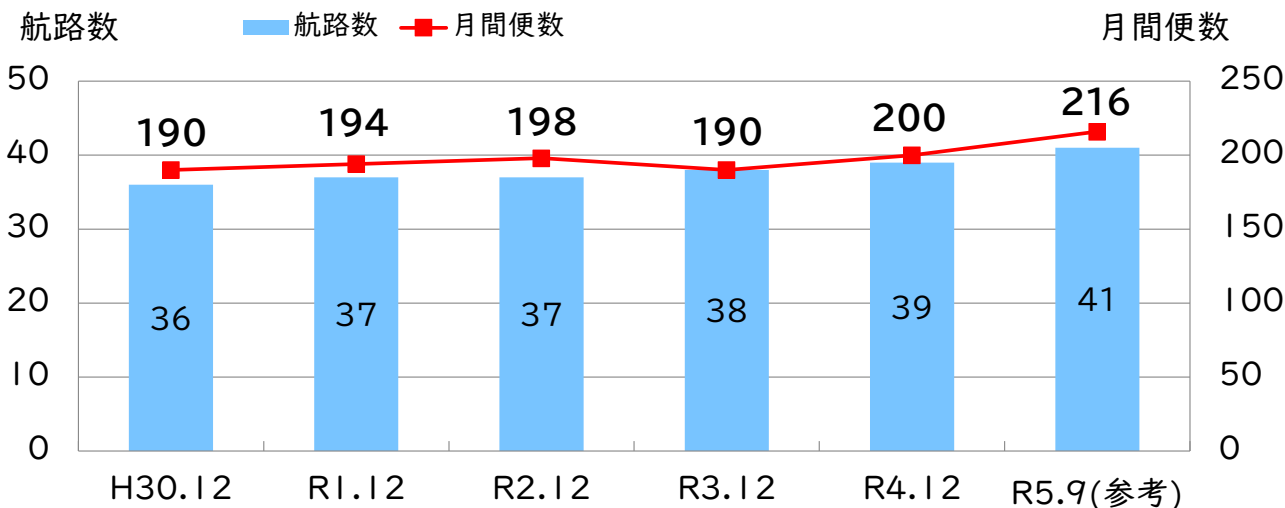
(令和5年9月1日現在)

41 航路・月間 216 便 (9 カ国・地域、46 港とのコンテナ物流網を形成)



■ 国際コンテナ定期航路の航路数・便数の推移

【グラフ 2】



3. 海上出入貨物（トンベース）

【令和4年港湾統計確定値】

貨物量：約 3,225 万トン

外国貿易：約 1,788 万トン、内国貿易：約 1,437 万トン

（1）海上出入貨物量の推移

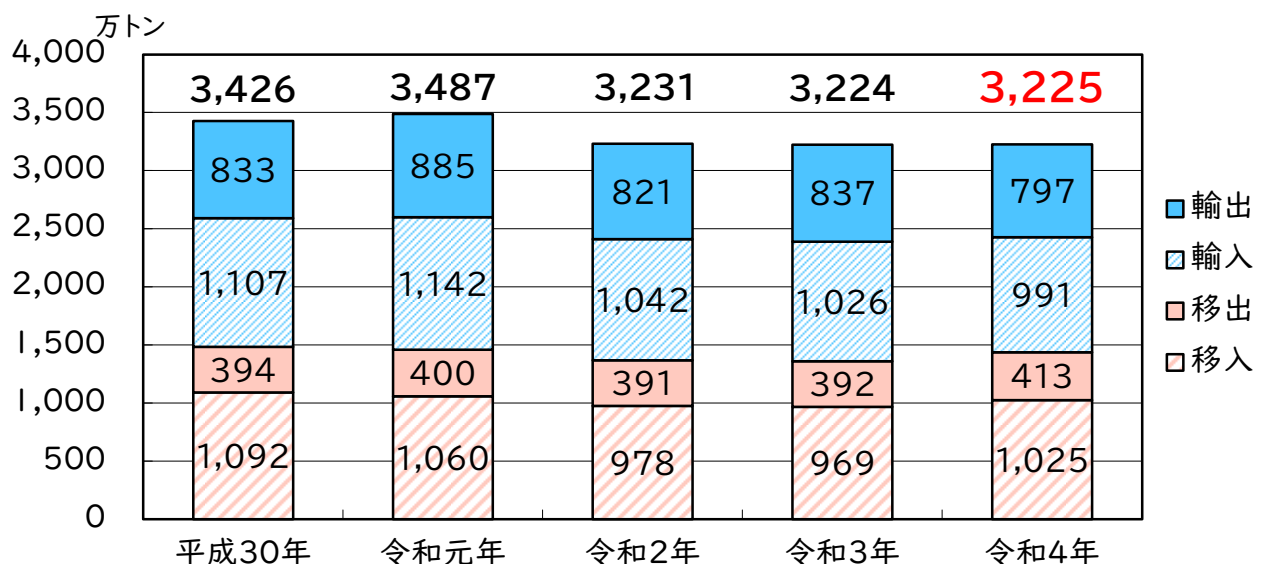
近年は 3,000 万トン台前半で推移しているが、令和4年の輸移出は前年より減少、輸移入は前年より増加しており、全体では令和3年と同程度となっている。

【表 3-1】

(単位:トン)

区 分	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年		
					数量	増減(R4/R3)	前年比
博多港全体	34,259,778	34,869,325	32,313,714	32,242,372	32,253,371	10,999	100.0%
輸移出	12,275,552	12,852,443	12,119,745	12,291,901	12,096,797	▲ 195,104	98.4%
輸移入	21,984,226	22,016,882	20,193,969	19,950,471	20,156,574	206,103	101.0%
うち外国貿易	19,400,872	20,275,931	18,624,587	18,625,360	17,880,503	▲ 744,857	96.0%
輸出	8,332,964	8,854,988	8,205,787	8,368,395	7,970,800	▲ 397,595	95.2%
輸入	11,067,908	11,420,943	10,418,800	10,256,965	9,909,703	▲ 347,262	96.6%
うち内国貿易	14,858,906	14,593,394	13,689,127	13,617,012	14,372,868	755,856	105.6%
移出	3,942,588	3,997,455	3,913,958	3,923,506	4,125,997	202,491	105.2%
移入	10,916,318	10,595,939	9,775,169	9,693,506	10,246,871	553,365	105.7%

【グラフ 3-1】



（2）令和4年の貨物量増減の主な要因

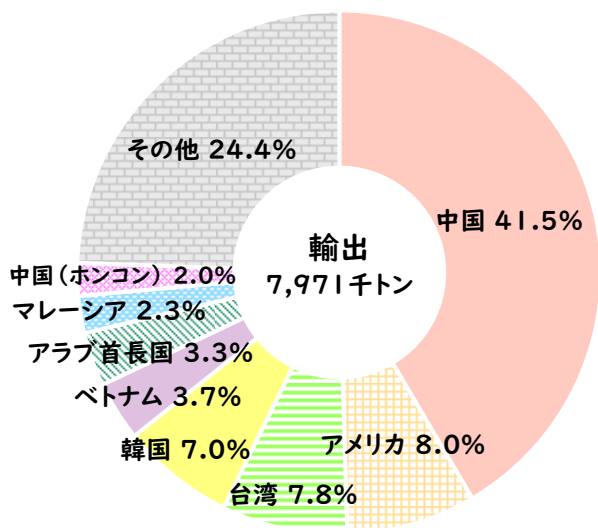
輸移出…完成自動車（前年比▲35.6万トン）や再利用資材（同▲9.7万トン）の減少等
 輸移入…砂利・砂（同+17.7万トン）やその他の石油（同+12.8万トン）の増加等

(3) 外国貿易 【17,881千トン】

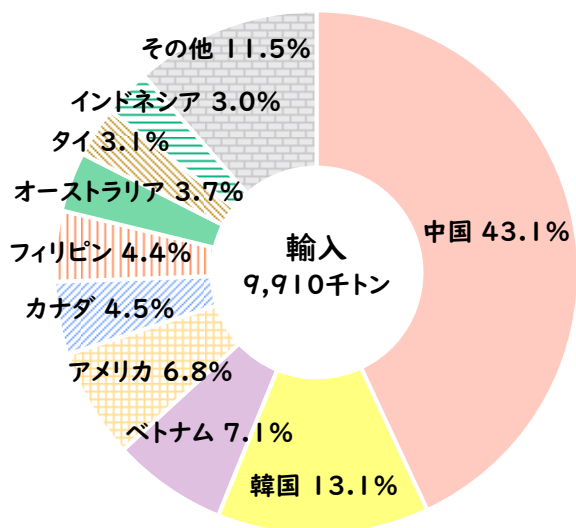
① 相手国別

輸出入ともに、中国や韓国、台湾などの東アジア地域が全体の約6割を占めている。

【グラフ 3-2】



【グラフ 3-3】



② 主要取扱品種

輸出では、中国をはじめとするアジアや北米、中近東向けを中心とする「完成自動車」や「ゴム製品（タイヤ等）」「自動車部品」など、自動車関連産業貨物が上位に挙がる。

輸入では、主にアジア諸国からの「家具装備品」や「衣類・身廻品・はきもの（衣類関係）」「電気機械」など、生活物資が上位を占めている。

【表 3-2】

(単位:千トン)

輸 出					
順位	品 種	取扱量	主な輸出相手国		
1	完成自動車	※ 3,709	中国	台湾	韓国
2	ゴム製品	1,115	アメリカ	アラブ首長国	サウジアラビア
3	産業機械	497	台湾	中国	ベトナム
4	自動車部品	320	アラブ首長国	マレーシア	韓国
5	再利用資材	298	台湾	ベトナム	韓国
6	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	286	中国	台湾	韓国
7	二輪自動車	212	イタリア	アメリカ	ベルギー
8	化学薬品	182	中国	台湾	韓国
9	金属くず	177	マレーシア	韓国	ベトナム
10	取合せ品	151	中国	スウェーデン	インドネシア

【表 3-3】

(単位:千トン)

輸 入				
順位	品 種	取扱量	主な輸入相手国	
1	家具装備品	1,433	中国	ベトナム
2	衣服・身廻品・はきもの	764	中国	ベトナム
3	動植物性製造飼肥料	724	韓国	アメリカ
4	麦	695	カナダ	アメリカ
5	電気機械	598	中国	中国(ホンコン)
6	野菜・果物	554	フィリピン	中国
7	製造食品	434	中国	韓国
8	自動車部品	344	ベトナム	中国
9	その他日用品	339	中国	韓国
10	木製品	312	中国	インドネシア

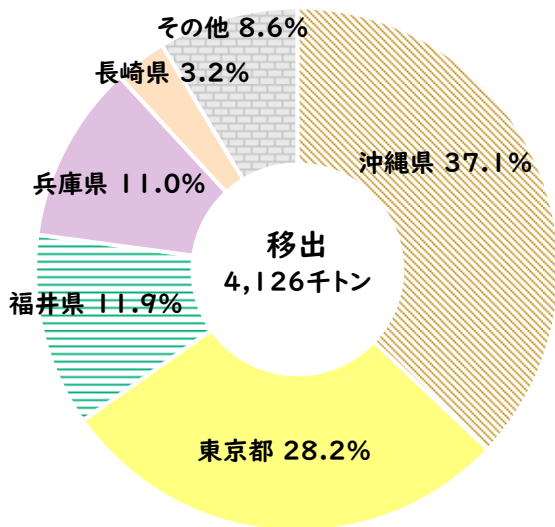
※ 普通・小型乗用車約 371,000 台分に相当

(4) 内国貿易 【14,373千トン】

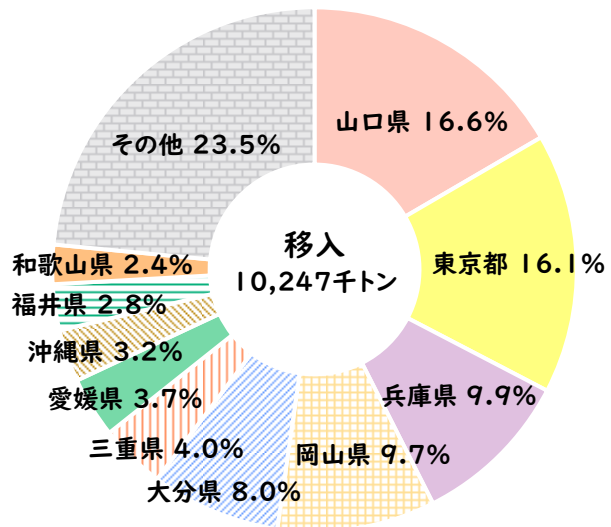
① 相手都道府県別

移出においては、定期航路を有する東京都や沖縄県との取引が多く、また、移入においては、東京都のほか、山口県、岡山県など石油製品を取扱う港との取引が多い状況となっている。

【グラフ 3-4】



【グラフ 3-5】



② 主要取扱品種

移出では、「取合せ品 (小口混載貨物等)」や「完成自動車」など、取扱品種が多岐に渡っており、主に、定期航路を有する沖縄県や東京都に移出されている。

移入では、「その他の石油 (軽油、航空燃料油など)」や「揮発油 (ガソリンなど)」などの燃料系貨物、「砂利・砂」や「セメント」「鋼材」などの建築資材、「完成自動車」が上位を占めている。

【表 3-4】

(単位:千トン)

移 出				
順位	品種	取扱量	主な移出相手都道府県	
1	取合せ品	841	沖縄県	東京都 兵庫県
2	その他輸送機械	602	福井県	東京都 兵庫県
3	完成自動車	※1 564	東京都	沖縄県 福井県
4	製造食品	255	沖縄県	兵庫県 長崎県
5	飲料	201	沖縄県	長崎県 兵庫県
6	その他日用品	195	沖縄県	長崎県 兵庫県
7	鋼材	171	沖縄県	兵庫県 広島県
8	麦	164	岡山県	香川県 広島県
9	ゴム製品	128	兵庫県	福井県 東京都
10	金属製品	103	東京都	沖縄県 福井県

※1 普通・小型乗用車約 56,000 台分に相当

【表 3-5】

(単位:千トン)

移 入				
順位	品種	取扱量	主な移入相手都道府県	
1	その他の石油	1,693	山口県	大分県 岡山県
2	砂利・砂	1,668	海上採取	長崎県 兵庫県
3	揮発油	1,622	山口県	岡山県 大分県
4	完成自動車	※2 1,260	東京都	三重県 沖縄県
5	セメント	569	山口県	福岡県 福井県
6	鋼材	406	岡山県	大阪府 兵庫県
7	取合せ品	371	東京都	沖縄県 福井県
8	動植物性製造飼肥料	234	兵庫県	福井県 岡山県
9	重油	216	山口県	大分県 岡山県
10	米	211	東京都	福井県 神奈川県

※2 普通・小型乗用車約 126,000 台分に相当

博多港のコンテナ物流について

<令和4年の国際海上コンテナ貨物動向>

◆国際海上コンテナ取扱個数

(単位：TEU)

区分	令和3年	令和4年	増減数	増減率
博多港全体	890,026	887,734	▲2,292	▲0.3%
実入り	644,429	639,014	▲5,415	▲0.8%
空	245,597	248,720	+3,123	+1.3%
輸移出	439,944	442,862	+2,918	+0.7%
実入り	229,148	230,992	+1,844	+0.8%
空	210,796	211,870	+1,074	+0.5%
輸移入	450,082	444,872	▲5,210	▲1.2%
実入り	415,281	408,022	▲7,259	▲1.7%
空	34,801	36,850	+2,049	+5.9%

◆輸移出における主な増加品目

(単位：TEU)

品目名	令和3年	令和4年	増減数	増減率
自動車部品	16,299	20,825	+4,526	+27.8%
取合せ品	5,437	8,343	+2,906	+53.4%
飲料	4,080	5,660	+1,580	+38.7%

◆輸移入における主な減少品目

(単位：TEU)

品目名	令和3年	令和4年	増減数	増減率
電気機械	32,718	28,293	▲4,425	▲13.5%
自動車部品	24,443	21,457	▲2,986	▲12.2%
衣服・身廻品・はきもの	36,637	33,942	▲2,695	▲7.4%

◆博多港の集荷対策について

博多港の強みを活かし、博多港における国際海上コンテナ取扱量のシェアが高い「東アジア」の貨物や、近年、増加が顕著な「東南アジア」の貨物を中心に集荷活動に取り組む。アジアの貨物については、九州内の港で輸出入されている貨物だけでなく、更なる集荷のため、九州からの流出貨物や、九州域外の貨物についても対象を広げ、積極的に集荷活動に取り組む。

第2章 博多港の人流

1. 船舶乗降人員

【令和4年港湾統計確定値】

乗降人員：約75万3千人

外国航路：約3千人、内国航路：約75万人

(1) 船舶乗降人員の推移

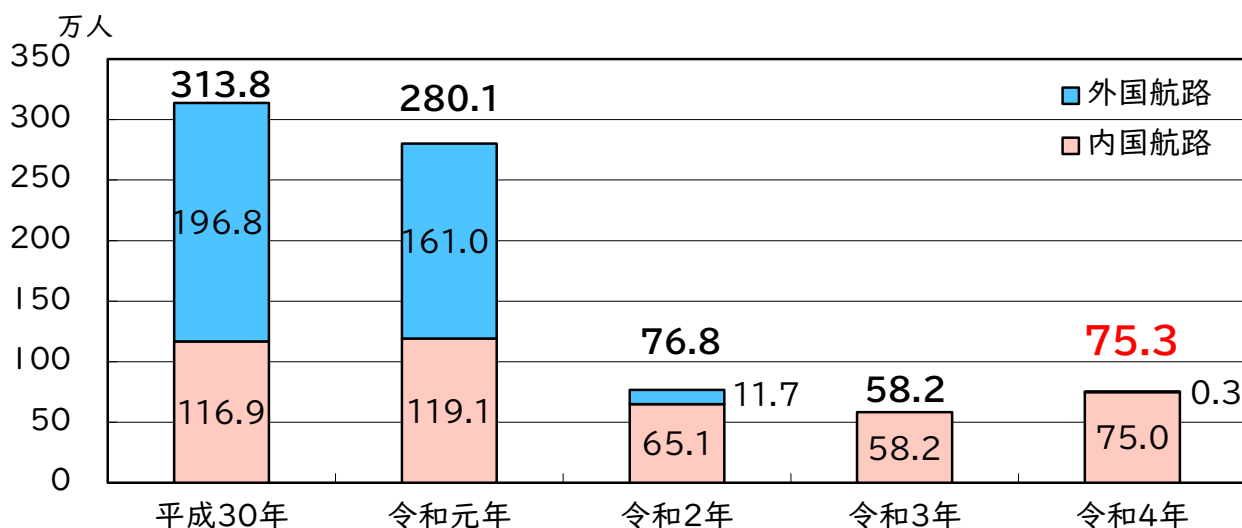
外国航路・内国航路とも、新型コロナウイルス感染症の影響による人の移動の制限等が緩和されたことにより、前年より増加している。

【表1】

(単位：人)

区 分	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	増減(R4/R3)	
					人数	人数	前年比
博多港全体	3,137,545	2,800,804	767,927	581,889	753,004	171,115	129.4%
うち外国航路	1,968,427	1,609,678	116,901	0	3,465	3,465	皆増
うち内国航路	1,169,118	1,191,126	651,026	581,889	749,539	167,650	128.8%

【グラフ1】



2. うち外国航路船舶乗降人員

【令和4年港湾統計確定値】

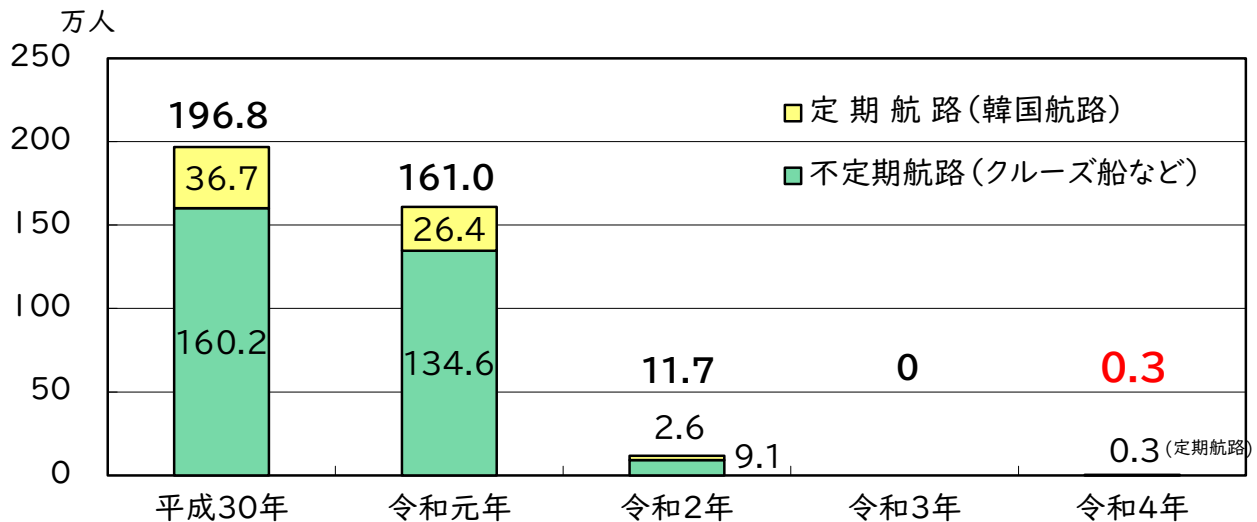
乗降人員：約3千人

(1) 外国航路船舶乗降人員の推移

定期航路については、水際措置（※）の見直しを受け、令和4年11月4日より日韓定期航路が再開したことによる皆増。不定期航路（クルーズ船）については、国際クルーズの運航休止が続いたことから、前年同様ゼロとなった。

※ 日本政府による新型コロナウイルス感染症の水際措置として、中国又は韓国との船舶による旅客運送停止が要請された（令和2年3月9日～令和4年10月10日）。

【グラフ2】



【参考：国内上位5港の推移】 国土交通省「港湾統計（年報）」より

(単位：人)

順位	平成28年		平成29年		平成30年		令和元年		令和2年	
	港湾名	人数	港湾名	人数	港湾名	人数	港湾名	人数	港湾名	人数
1	博多港	2,120,035	博多港	2,090,345	博多港	1,968,427	博多港	1,609,678	博多港	116,901
2	長崎港	1,044,154	長崎港	1,538,571	長崎港	1,394,392	那覇港	1,347,776	那覇港	76,595
3	那覇港	761,298	那覇港	969,481	那覇港	1,217,201	長崎港	1,091,761	長崎港	69,637
4	比田勝港	362,026	八代港	573,962	比田勝港	632,842	石垣港	581,023	石垣港	36,560
5	鹿児島港	344,469	比田勝港	515,506	鹿児島港	533,180	平良港	522,529	比田勝港	23,580

(日本政府からの旅客運送停止要請により博多港は旅客運送を休止していたため、令和3年の実績はない。)

3. クルーズ船の寄港回数

【令和4年港湾統計確定値】

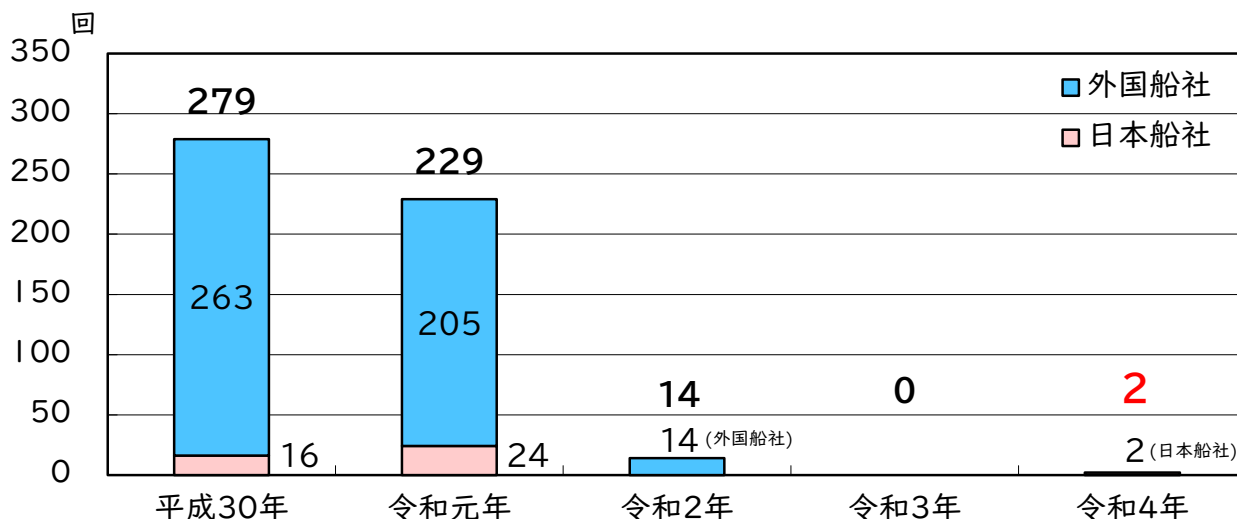
寄港回数：2回

外国船社：0回、日本船社：2回

(1) クルーズ船の寄港回数の推移

新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、令和2年3月以降のクルーズ船の寄港がなかったが、令和4年6月に感染症対策を徹底して運航している国内クルーズの受入再開することを公表し、令和4年11月4日から国内クルーズの寄港が再開した。

【グラフ3】



第3章 博多港の入港船舶

1. 入港隻数及び総トン数

【令和4年港湾統計確定値】

入港隻数：24,307隻

総トン数：約5,063万総トン

外国航路：2,555隻・約3,028万総トン、内国航路：21,752隻・約2,034万総トン

(1) 入港隻数及び総トン数の推移

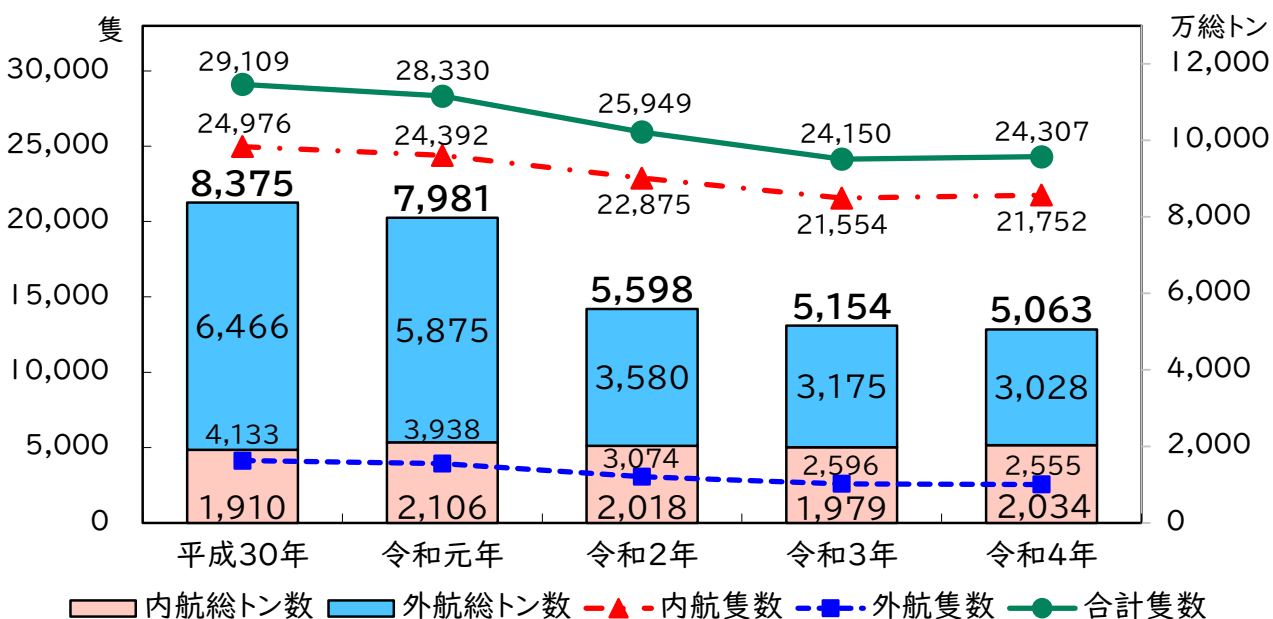
令和4年の入港隻数は令和3年と同程度だが、自動車専用船等の入港隻数減少により、総トン数が減少している。

【表1】

(単位：隻、総トン)

区 分	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	増減(R4/R3)	
					数量	数量	前年比
入港隻数	29,109	28,330	25,949	24,150	24,307	157	100.7%
うち外国航路	4,133	3,938	3,074	2,596	2,555	▲41	98.4%
うち内国航路	24,976	24,392	22,875	21,554	21,752	198	100.9%
総トン数	83,754,376	79,805,066	55,983,314	51,540,787	50,627,385	▲913,402	98.2%
うち外国航路	64,657,295	58,748,120	35,802,548	31,750,203	30,284,868	▲1,465,335	95.4%
うち内国航路	19,097,081	21,056,946	20,180,766	19,790,584	20,342,517	551,933	102.8%

【グラフ1】



市営渡船の経営状況

< 航路別収支 >

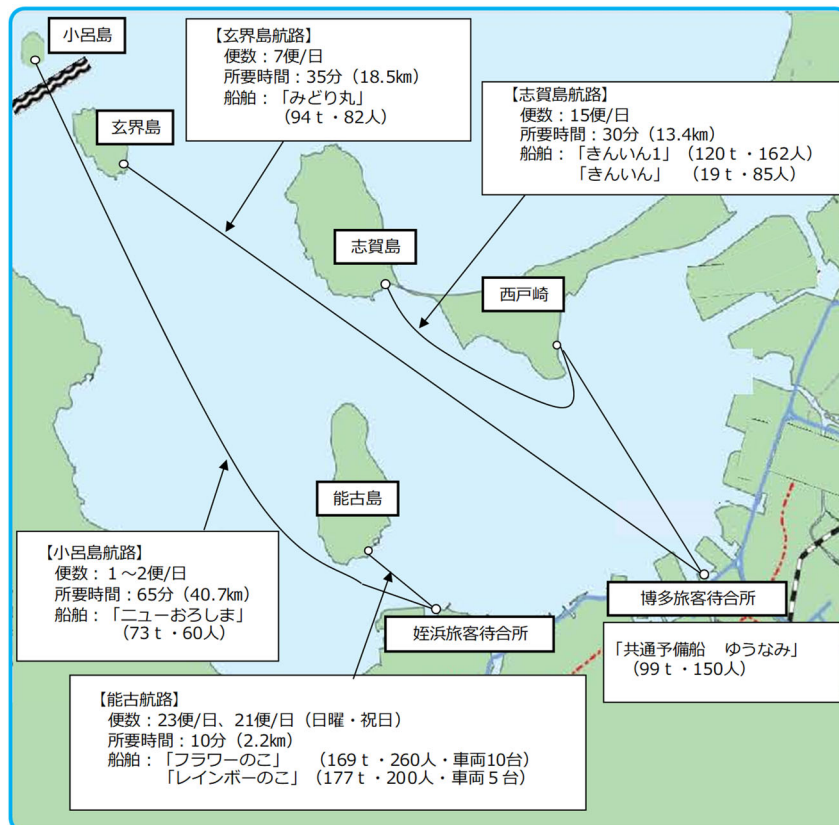
(単位：千円)

区分		令和4年度 決算(見込み)				
		志賀島	能古	玄界島	小呂島	合計
歳入	運賃収入等	67,025	227,033	48,688	20,646	363,392
	国・県補助金	0	0	122,011	78,657	200,668
	計	67,025	227,033	170,699	99,303	564,060
歳出	運航経費	371,903	370,745	252,496	159,303	1,154,447
運航収支		▲ 304,878	▲ 143,712	▲ 81,797	▲ 60,000	▲ 590,387
公債費(市債償還分)等		31,699	44,828	49,317	2,638	128,482
繰入金		336,577	188,540	131,114	62,638	718,869

< 取り組み状況 >

- 新型コロナウイルス感染症対策
令和4年度⇒船内消毒やマスク着用のよびかけ等
令和5年度⇒2類から5類への移行に伴い、マスク着用の呼びかけ等を終了
- 増客増収への取組
令和4年度⇒情報発信や各種イベントとの連携等
令和5年度⇒これまでの取組に加え、経済観光文化局と連携したイベント実施、ホテル・観光案内所への広報活動を実施予定

< 航路概要図 >



第4章 福岡空港の概況

1. 乗降客数

【令和4年度確定値】

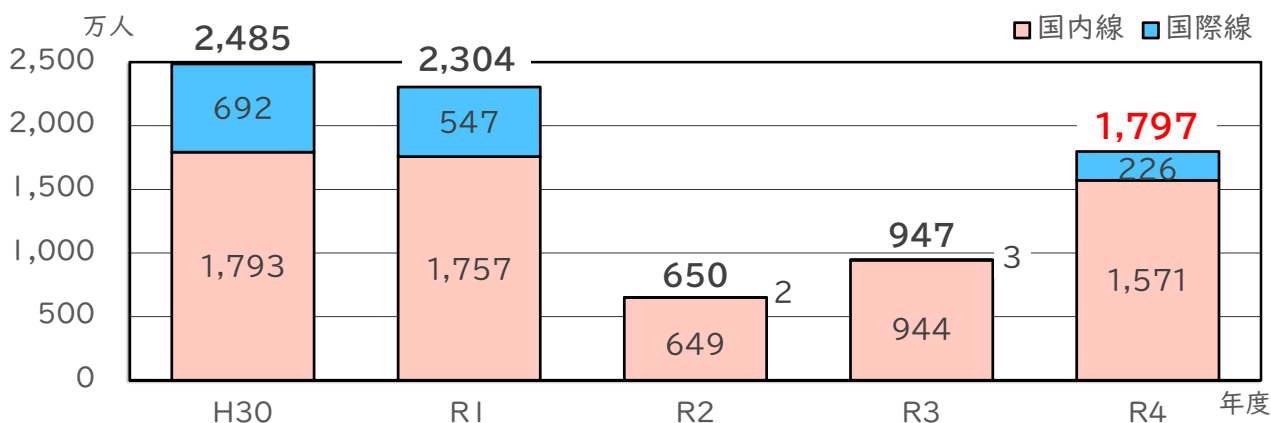
乗降客数：約 1,797 万人

国際線：約 226 万人 国内線：約 1,571 万人

(1) 乗降客数の推移 国土交通省「空港管理状況調査」より

新型コロナウイルス感染症対策の移動制限の撤廃等により、国内線が先行して回復してきている。

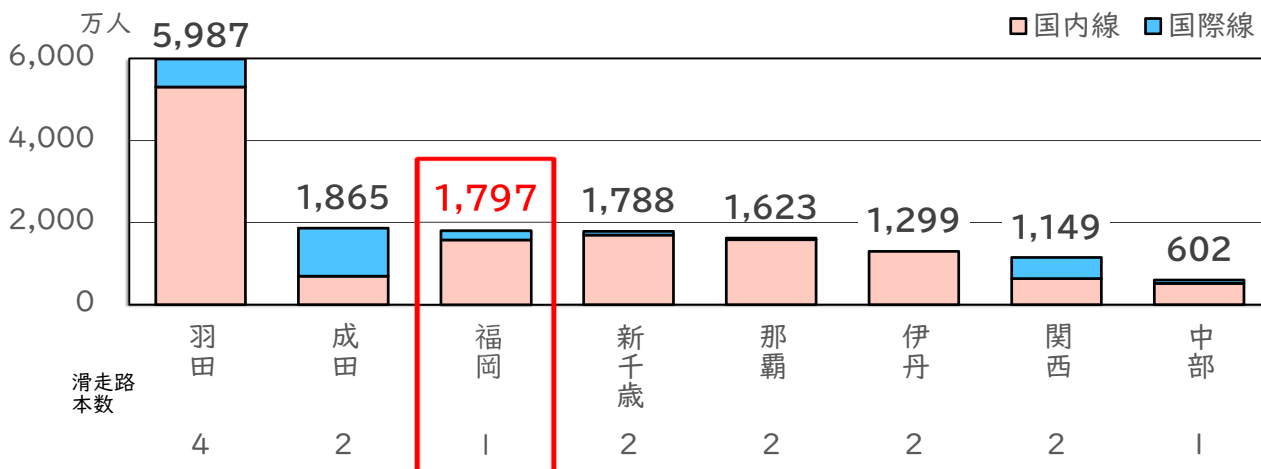
【グラフ 1-1】



【参考：国内主要空港との比較（令和4年度）】 国土交通省「空港管理状況調査」より

福岡空港の乗降客数は国内第3位である。

【グラフ 1-2】



参考：乗降客数の推移（1月～12月）

暦年	H30	R1	R2	R3	R4
乗降客数	約 2,464 万人	約 2,468 万人	約 958 万人	約 848 万人	約 1,482 万人
(うち国際線)	(約 683 万人)	(約 640 万人)	(約 88 万人)	(約 2 万人)	(約 93 万人)

2. 貨物取扱量

【令和4年度確定値】

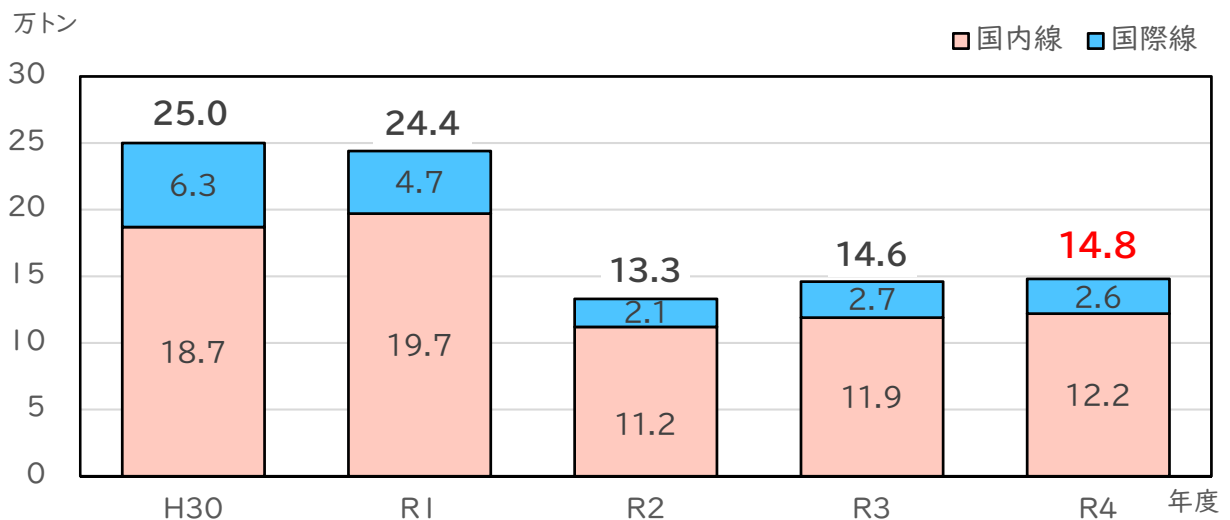
貨物取扱量：約 14 万 8 千トン

国際線：約 2 万 6 千トン　国内線：約 12 万 2 千トン

(1) 貨物取扱量の推移 国土交通省「空港管理状況調査」より

国際線・国内線ともに前年度と同程度となっている。

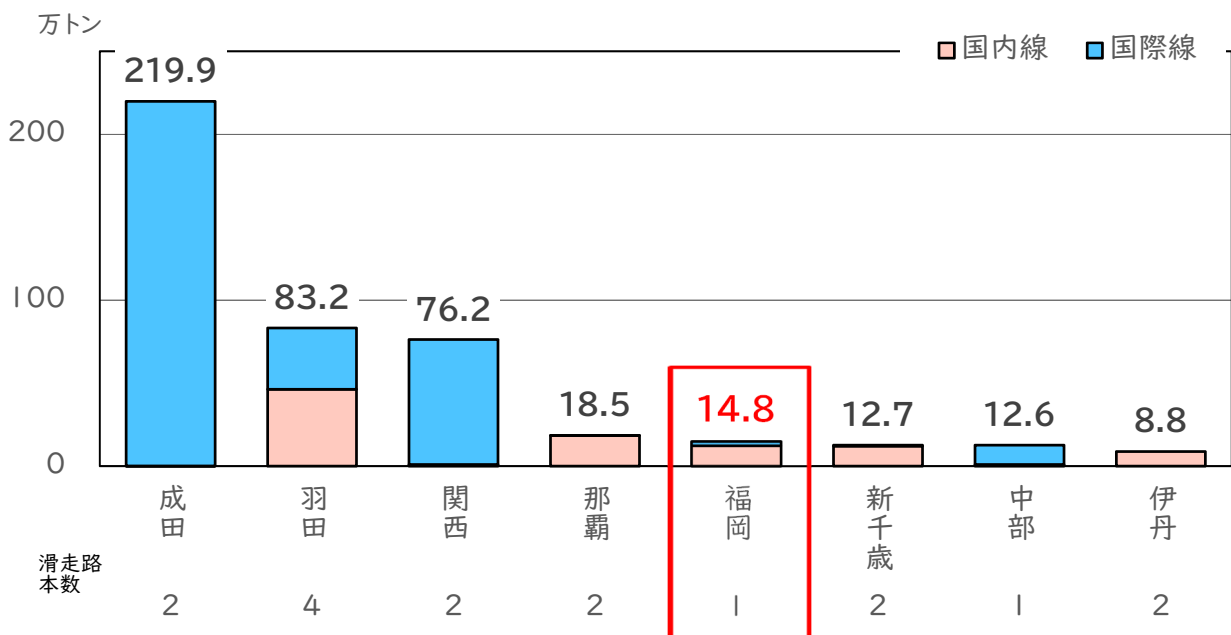
【グラフ 2-1】



【参考：国内主要空港との比較（令和4年度）】 国土交通省「空港管理状況調査」より

福岡空港の貨物取扱量は国内第5位である。

【グラフ 2-2】



3. 発着回数

【令和4年度確定値】

発着回数：約15万9千回

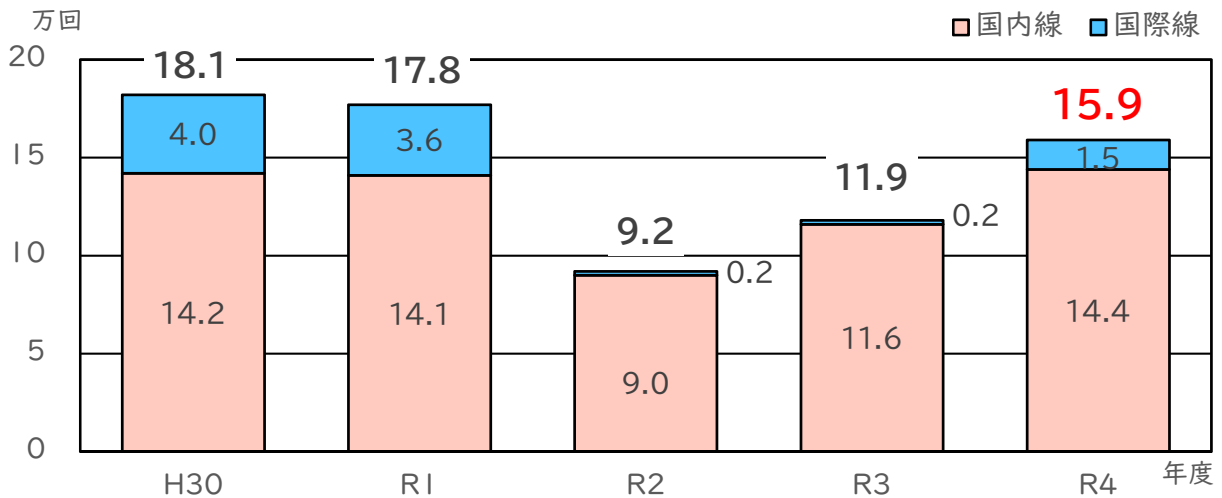
国際線：約1万5千回

国内線：約14万4千回

(1) 発着回数の推移 国土交通省「空港管理状況調書」より

新型コロナウイルス感染症対策の移動制限の撤廃等により、国内線が先行して回復している。

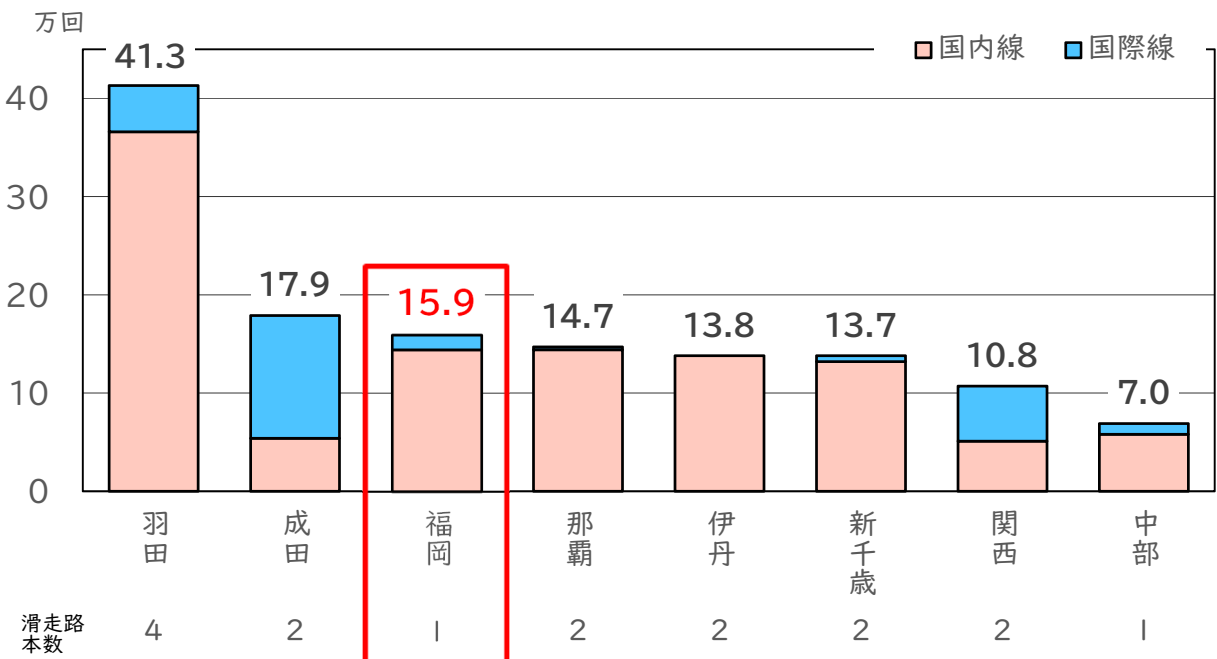
【グラフ 3-1】



【参考：国内主要空港との比較（令和4年度）】 国土交通省「空港管理状況調書」より

福岡空港の発着回数は国内第3位である。

【グラフ 3-2】



4. 路線状況

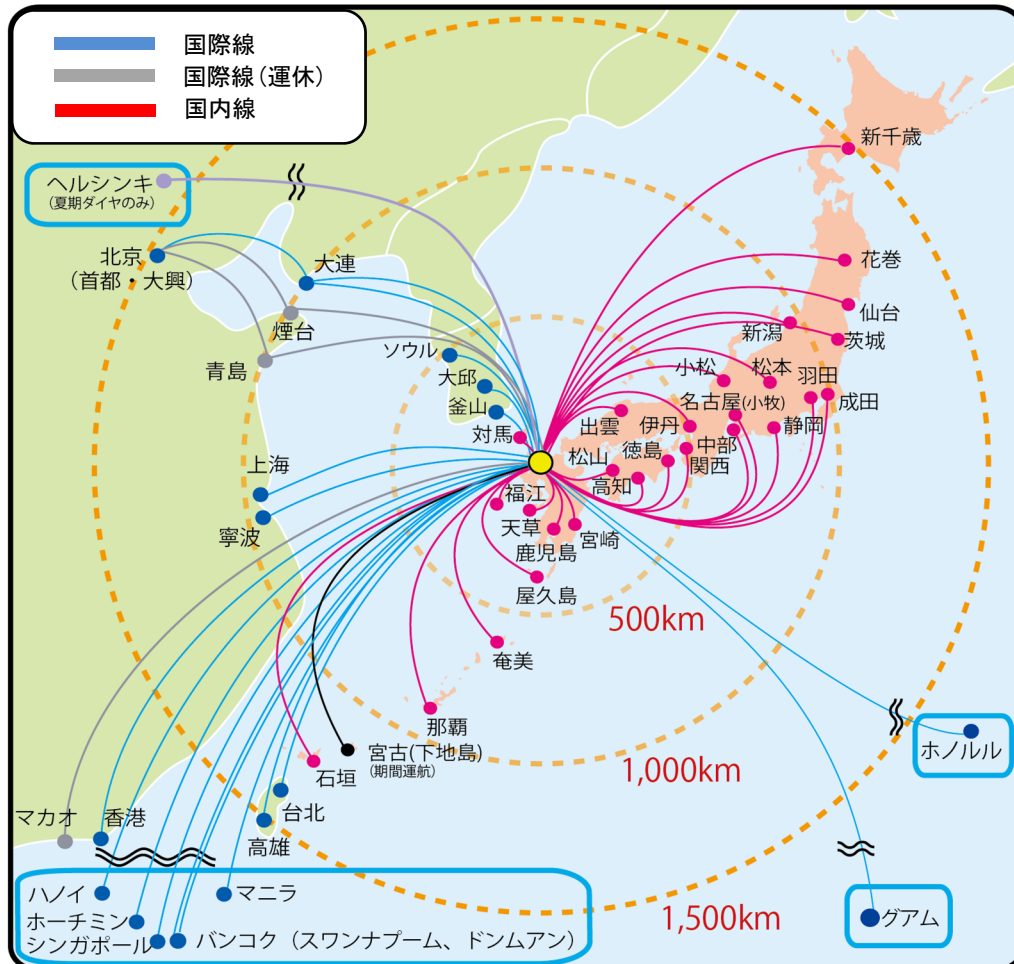
令和5年9月現在で、路線数は国際線が22路線、国内線が27路線となっている。
また、発着便数は国際線が週748便、国内線が1日380便となっている。

福岡空港の時刻表（9月）を基に福岡市港湾空港局集計

区分	路線数	発着便数	乗入航空会社数	行先
国際線	22 ※運休含む	748 (便/週)	27	フサン テグ シャンハイ ペキン タイレン チンタオ ソウル、釜山、大邱、上海、北京、大連、青島、 イエンタイ ニンポー タイペイ カオシュン ホンコン 煙台、寧波、台北、高雄、香港、マカオ、 マニラ、バンコク、ハノイ、ホーチミン、 シンガポール、グアム、ホノルル、ヘルシンキ ※下線部は時刻表上「運休」 計21都市（9カ国・地域）
国内線	27	380 (便/日)	13	羽田、成田、新千歳、花巻、仙台、新潟、 小松、松本、茨城、静岡、中部、名古屋(小牧)、 関西、伊丹、出雲、松山、徳島、高知、 対馬、福江、天草、宮崎、鹿児島、屋久島、 奄美、那覇、石垣 計27空港

※乗入航空会社については、コードシェアのみの会社を除く

福岡空港路線図（令和5年9月現在）



福岡空港の機能強化



航空機混雑を解消するとともに、将来の航空需要に適切に対応するため、滑走路増設事業を実施(令和6年度末供用開始予定)

福岡市・福岡国際空港(株)協議会の開催実績（令和5年3月以降）

福岡市は、運営会社との間で、相互の協力と密接かつ持続的な連携により福岡空港及び地域の活性化を図ることを目的として、パートナーシップ協定を締結し、市独自の協議の場(福岡市・福岡国際空港(株)協議会)を設置

開催日・出席者	主な協議内容
<p>令和5年6月6日（幹事会）</p> <p>【福岡市】 港湾空港局長、理事、 空港振興部長 他</p> <p>【運営会社】 副社長、経営企画本部長 他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市から、前回の幹事会以降に開催された市議会における、空港関連の主な質疑について説明。 ・市から、令和5年度予算及び主要施策について説明し、世界水泳選手権福岡大会に向けたおもてなし事業についても紹介し協力を依頼。 ・運営会社から、2022年度決算について報告があり、新型コロナウイルス感染症の影響で依然として厳しい経営環境にあるが、旅客数、便数の急速な回復により収支は改善傾向にあり、資金繰りも確保できているとの説明があった。 ・運営会社から、2023年度事業計画について報告があり、これまで市が依頼してきた安全安心で周辺地域に寄り添った空港運営、航空ネットワークの強化、利用者利便の向上の事項が反映されていることを確認。 ・市が求めていた空港の混雑緩和について、運営会社から、保安検査における誘導員の配置や番台方式の導入、国内線駐車場における国際線側駐車場への誘導の取り組みにより、いずれも大きく改善が図られたとの説明があった。今年度、さらにスマートレーンの導入や新立体駐車場及び一般車乗降場の整備を進めるとの発言があった。